

平成30年度 岡山市子ども・子育て会議 第1回就学前教育・保育部会（議事録/要約）

日時：平成30年6月11日（月）午後1時30分～午後3時21分

場所：岡山市役所 1階 多目的ルーム

開会

・ 部会長挨拶

・ 成立確認・・・委員13名中12名出席にて過半数を充足し、成立を確認。

議事

議事進行は部会長

（1）平成31年度保育利用調整基準点等の見直しについて

委員 第2、第3希望の辞退者は、第1希望でないからということだろうが、第1希望の内定辞退者の主な理由はなにか。

事務局 多いのは転勤による引っ越し、その次に幼稚園やそのほかの認可外施設に行くから。

委員 辞退が出た場合は、補充は第2希望に回された方も、もう一回選定できるのか。

事務局 できない。

内定したけどやはり第1希望に行きたいという場合は、内定の取り下げ（辞退）をしていただいて、次の選考にかける。内定したまま（枠を1個持ったまま）別の園も申し込むというのはいけません。

委員 第2、第3希望の園に決まった方の辞退の理由は第1希望の園に入れなかったからというのが全てか。

事務局 全てではないが、割合的には高い。

委員 そこのところは枠があいてしまう問題があるという市の考え方もある。加点の必要性の検討という今後の対応を書いているが、どう検討をするという方向性があるのか。

事務局 第1希望の園については点数を1点なら1点加点するというようなイメージ。第2、第3希望に加点はない。加点をすることによって、希望する園への入園がしやすくなるので、その分内定の辞退者も減ることを想定した。

- 委員 第1希望に加点すると、そこでの競争が激化するということはあるのか。
- 事務局 当然あると思う。
- 委員 4歳、5歳での未入園ないし待機が減ってはいるけれども、なお残っている。4歳、5歳というのは小学校入学前の大事な時期。この方々はご自宅で小学校入学前もおられるのか。
- 事務局 全てではないが幼稚園やこども園、認可外企業主導型の保育事業等の認可外施設に行きながら保育の申し込みをしている人が多い。
- 委員 加点の配点のことというのは非常に重要だと思うので、優先度の高い方が入れるような方式というのは大事だと思うが、逆に言うと初期段階の加点配点のところに目が行き過ぎて、結果的に年齢が上がったところの子どもが入り切れないというような加点の仕方になるのは問題。市として十分配慮してほしい。
- 委員 1ページの1の表について、新規の入園児数でいうと、去年の4月より今年のほうが少ないのはなぜか。
- 事務局 全体の申込者の伸び率というのが、この平成30年4月の分で全体的に減っている。育休退園制度の見直し等によって一時的に増えた要因が、この4月で多少落ちついたと考えている。
- 委員 申し込み児童数は376人増えているけど、新規の方は減っているというのは。
- 事務局 平成28年、平成29年が800人以上と特に多かったということがあると思う。多かった結果、継続の人が増えている。
- あともう一つ別の要因として、平成29年中に大規模な園が開設されたということで、前倒しで前の年度にとったことも要因としてあると思っている。
- 委員 入園できるのは、学区と関係ないのか。
- 事務局 保育園も幼稚園も、就学前の施設に学区制というのではない。
- 委員 第1希望をどこに書くか保護者の方は神経を使って、そのために見学に行っていると受け取れる。第1希望については幾らか加点をしてもいいのではないのか。
- 学区の優先については、もともと保育園は学区がないということであらう。
- 園長会でも、中学校区でどうこうということは無理があると話が出ている。
- また、保育士加点について、自分の園でもほかの園でも区別なく5点だが、自分の園を希望する場合には、もう少し点数を高くしてほしい。
- 委員 働いている保護者の立場からいくと、学区優先がネックになることもある。

しかし、1号の認定の保護者は、その小学校、中学校に上がるときのことを想定して入れている。特にその小学校が学区の枠を超えて隣接学区へ入るといのがなくなったので、その小学校より外の学区に入ってしまうと、後に小学校に入ったときに新しいお友達ばかりになって非常にやりにくいということもある。

それからもう一つ、保育士加点について、直接的な待機児童の観点から、これは幼稚園教諭とか市外の保育士、認可外の保育士は加点をしても待機児童の解消になりにくいということか。

事務局 岡山市の待機児童を減らすことを最優先に考えていきたいので、まずは市内の認可の保育士ということで考えている。

委員 優先順位としてはそうであろう。ただ、全体的な待機児童がなかなか減らない現状を見たときに、現行の保育園であるとかこども園であるだけでは、受け入れきれないかもしれない。そうしたときに、次善の策として、現行の幼稚園等の空き施設を利用することを考えたときに、将来的には保育士以外の職員にも加点配点をするによって、そういう施設も有効利用できる方向の加点方式を検討してほしい。

委員 私立の幼稚園の先生にも加点してほしい。

委員 自園を希望したとしても、公立園の場合、異動があるで、2年、3年、一緒に通えたとしても、またそこで離れないといけないという実態があるため、難しい。

委員 育児休業中の取り扱いについて、以前は育児休業の際には一旦退園してもらっていたが、今はそのままずっと在園できる関係で、もう受けられない状況になっており、検討の必要がある。

また、未納世帯について、今何か保育料未納の方に対する指導やペナルティーはあるのか。

事務局 今現状では、料金課という財政局のほうで差し押さえとか、そういったことをしている部署がある。一般的には2カ月に1回の園長催告ということで、私立の園の先生方にご協力いただき、お支払いが滞っている方に対してお手紙を渡してもらっている。

委員 ②番の中学校区優先廃止について。保護者として入学1年ぐらい前に、この学区のこの小学校に行かせたいということで、転園される方も多。小さいときは学区が優先じゃなくてもいいと思うが、就学1年前ぐらいは学区優先というのがあ

ってもいいのかと。学校へ行きづらくなる子はお友達がない子が多いと、小学校のPTAからもきく。そういうことを考慮すると最後の1年間というのは学区優先制度があってもいいと思う。

委員 緊急一時に預けている方が、集団生活に入れる年齢が次のときに、加点がつくことはあるか。

事務局 今のところ、まだない。

委員 緊急一時預かりの4歳児とか年長児の利用率はどれぐらいか。枠に対してどれぐらいの人が利用しているとかは分かるのか。それが例えば低いならば、大きい年齢の保護者は、大きい集団を求めているということになるのではないか。そういうところでは加点が必要だと思う。

事務局 緊急一時預かりの平成30年4月時点の利用状況をお答えする。

公立の幼稚園が6園、私立の幼稚園さん2園あり、定員が157に対して64人の利用となっている。この64人の方は認可園に申し込んであり、認可園に入れなかったためこちらに行ってもらっている状況。年齢の内訳は分からない。

部会長 ほかになければ、その他にうつるがよいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

## (2) その他

事務局 〔保育利用定員の変更一覧表について説明〕

委員 就学前教育の無償化について、どのように想定しているのか。

事務局 平成31年10月に全面実施。3歳児から5歳児については全員、0歳児から2歳児については住民税非課税世帯はそれを実施するという方向が、報告書で示された。その中に、現在待機児童等の問題がある中で、認可園に行けない子どもについても救済すべきということで、幼稚園、保育園、認定こども園以外でも、保育の要件を充足する子どもさんに対しては無償化の対象としていく報告書がまとまったと把握している。

市としては、ここから先、その無償化の動きと同時に平成32年度以降に向けた、子ども・子育て支援事業計画を平成32年4月には完成させるので、その新たな計画策定に向けたアンケートを実施する予定。

委員 国がお金だけ用意しても、ハードや人力的なものはすぐには揃わないので、いろいろな面からしっかりやってほしいと思う。

部会長 最後に、全体を通しての皆様のご意見を伺いたい。平成29年度は735の利用定員増、それから平成30年度が903の増を計画しているとのこと。結局待機児童を減らすためにどうしたらいいのか、その点について皆様のお気持ち、ご意見等あれば、伺いたい。

委員 公立幼稚園は、定員100人以上の施設を30人とか10人とかで使うという現状がある。その施設を有効利用していくことは岡山市でも出している方針ではあるが、一日でも早く、その有効利用の道を考えてほしい。

委員 今後の待機児童を減らすための対策を岡山市として何か考えているか。

事務局 受け皿の確保は着実に進めたいと思っている。

一方で、保育士の確保は困難だと思っている。市独自の保育士への給与の助成なども行い、ここ何年か保育士は徐々に増えているが、出産や育児で、やめられる方が多いのも確かで、潜在的に今家庭におられる方に現場に復帰してもらうためにはどうしたらいいのか、すごく悩ましく思っている。

受け皿と保育士と、あともう一つ、我々の側のマッチング、コンシェルジュを市内に10人配置している。小規模なり企業主導型なり、一時預かりなり、そういったご案内もしっかりさせてもらって、この3つを取り組んで、一日も早い待機児童、それから未入园児童を減らしたいと思っている。

部会長 他にあるか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

閉会